

# 三重の土地改良アラカルト

## 広域農道整備事業 中南勢2期地区 勢和多気工区について

松阪農林事務所 農村基盤室 基盤整備2課 技師 松尾祐弥

### 1. はじめに

平成27年8月8日、広域農道整備事業中南勢2期地区勢和多気工区の開通式が多数の来賓の出席のもと、盛大に開催されました。本農道は二つの地区（中南勢地区、中南勢2期地区）と三つの工区（明和多気工区、松阪工区、勢和多気工区）から成り、今回開通した勢和多気工区は本事業において最後の未供用区間でした。平成12年の事業採択から完成までに15年の歳月をかけて開通しましたが、これにより、松阪市・多気町・明和町・大台町等のさらなる社会・経済的な一体性の向上が期待されています。



### 2. 事業の概要

「農産物自由化による低価格化」、「農業従事者の高齢化と後継者不足」等から、農地の担い手への集積、農産物の高品質化、ブランド化を進める事が急務の課題となっています。また、消費者からは有機野菜、有機米、無農薬野菜等の安全でおいしい農産物が求められています。これらをふまえ営農組織化の推進や集出荷体制の一元化、ブランド化に取り組む為に関係市町の今後の営農方針を中南勢地区広域営農団地整備計画として作成し、地域の農業経営合理化、



効率化を図ることなどを目的として農道を整備しました。

全体受益地は、10,638ha(田8,530ha 畑949ha 飼料畑9ha 樹園地1,150ha)で、そのうち多気町の受益地は、2,089ha(田1,395ha 畑230ha 樹園地464ha)となっています。

### 3. これまでの歩み

本工区は、多気町丹生地区から、長谷地区、神坂地区を経て相可地区を結ぶ総延長4.5km、全幅7m(有効幅員5.5m)の道路です。

中南勢2期地区勢和多気工区において、当該路線が選定された時、当地の人々は道路が出来ることによる利便性の向上を喜ぶ一方で、本地区の土質が真砂土であり、昭和46年の豪雨により、山からの土砂が集落に流れ込んだ過去の経験から、大雨によって道路盛土が崩壊し土石流として集落に襲いかかるという事を大変心配していました。そこで、道路線形を集落から離すなどの対策や、真砂土を盛り土材として利用する場合の対策工法とその安全性についての地元説明を実施し、入念な地元住民との合意形成を行ってきました。



### 4. おわりに

私が本農道に関わらせていただいたのは15年間のうち、ほんの少しですが、現場を見てみると、側溝の種類や法面保護の工法が場所によって違うなど、事業着手から完了までの15年間に工法選定の基準も変遷してきたのが実感できます。この長年の年月を経て完成した農道が、将来にわたって地域の多くの方に親しまれ、利用していただけることを心から願っています。

最後になりましたが、本工区が無事開通できたのは、地元関係者を始め、多くの方々のご尽力の賜物と深く感謝申し上げます。